

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270801580		
法人名	株式会社リエイ		
事業所名	癒しの市川おにだか館		
所在地	市川市鬼高1-6-2		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和5年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は市川市の中で一番最初の認可を受けて運営している複合型介護施設です。
令和3年10月1日からコミュニケア24市川おにだか館から癒しの市川おにだか館へと事業書名を変更しています。
23年の運営に辺り、建物の老朽化はありますが、変わらぬ安定した介護力とご利用者様の心に寄り添う認知症ケアを日々提供しています。
近隣に往診医を持ち、管理薬剤師、外部リハビリ機能訓練師と共に利用者ニーズに柔軟な医療連携が保たれています。
2017年より生活保護枠での施設入居を実施しており市川市との連携の中、住みやすい環境と安心を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「癒しの市川おにだか館グループホーム」は、地上4階の建物の複合施設の2階と4階にある。建物内にはグループホームをはじめ、デイサービス、住宅型有料老人ホーム、訪問介護、居宅サービスが併設されており、複合施設の特徴を活かしたサポート体制を整える等、地域に根ざした施設運営に取り組んでいる。日頃から医療面においては協力医療機関の医師等と連携を図っており、その時々状況の変化やニーズに応じて適切な支援が行えるよう体制を整えている。また、看護職員が常駐しており、健康管理・服薬管理・医療相談・助言等が行われており、入居者及び家族の安心に繋がっている。その他にも、看取り支援の実績もあり、医療機関や家族と連携しながら支援計画を作成しており、納得が得られる終末期の支援が家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に配置しています。今年度はおにだか館年間テーマを目標にして職員全員が共有出来る環境を作りました。全職員共通の「三つの誓い」を始め、実践に努めている。	運営理念・施設理念・全職員共通の「三つの誓い」を掲げ、施設内に掲示する等、内部・外部の人への周知を図っている。また、入職時研修・会議等を通して、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。その他にも、今年度は「自分の考えや思いを大切に、挑戦する事をあきらめない。」という年間目標を掲げており、全職員が常に向上心を持ってサービスの提供に臨む姿勢を明確にし、質の高い「快護」の実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動はコロナ禍での活動縮小により途切れている。コロナ感染状況などを考慮して、職場体験の学生実習などの受け入れを行っています。また複合施設のメリットとしておにだか館合同夏祭りなどに近隣の方や、ボランティアの方を呼んで交流をして頂いています。	自治会に加入しており、近隣住民とのつながりを大切にしている。また、日常の買い物やドライブ等を通して、入居者と地域との関わりを支援している。今年度は、介護相談員や傾聴ボランティアの来訪に加え、小・中学生の職場体験や実習生の受け入れも行われている。また、おにだか館合同夏祭りも開催されており、地域交流の機会も増え、入居者の生活活性化に繋がっている。現在、コロナ感染状況を踏まえ、自治会活動への参加等は控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	急な施設見学の受け入れや、介護サービスの緊急ニーズ依頼を受けて短期体験利用(入所目的あり)の対応ができた。地域の一員として利用者様が安心して暮らせるように支援しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況によってですが、開催前に書面報告か対面開催かを稟議して対応しました。運営推進会議を意見交流の場や勉強会、身体拘束委員会を議題にし、時には利用者様を交えて開催しています。提議された意見は共有しサービス向上に活かしています。課題としては参加者を増やす工夫や取り組みが必要だと思えます。	今年度から、対面での運営推進会議を開催しており、地域包括職員・家族・職員等を構成員として、年6回の実施を目指している。会議では、施設活動報告や意見交換・身体拘束廃止委員会を行っており、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋がっている。今後は施設の理解と支援を得るために、出席率の向上を目標に掲げ、食事の試食会を兼ねた会議の実施・勉強会・新入居者家族の参加を促す等、対策を講じている。	

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高サポ・包括・イベントなどの情報、運営推進会議の内容などをお互いに事前に連絡しあっています。市の活動や直近の感染症事情などを連絡しあう際に、情報交換とご協力をしていただいています。	日頃から市に対して、報告や相談を随時行っており、協働関係を構築している。地域包括支援センターや高齢者サポートセンターとは、運営推進会議参加を通じて、意見交換や情報共有を行っている。コロナ禍においては、市とは電話やメールを活用し、施設の現状やニーズを伝える等、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止マニュアル」を基に全職員へ周知を図り、年2回の研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員のケアのやり方を見直す研修を行っています。研修を欠席した者や新人職員の方へのフォローも徹底したいと思います。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に検討委員会が開催されている。また、内部研修の実施により、全職員が適切な支援方法を身につけており、身体拘束の無い支援の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、周知しています。クレーム苦情担当窓口を設け、産業医による安全衛生委員会やストレスチェックなどで、職員側の過労によるストレスなどにも気を付け、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、管理者を中心に体制を整えています。研修などで職員側の知識の強化、一人一人に対して異なる必要性の有無などを勉強して、個別に理解と対応に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を契約者と読み合わせを行い、理解、納得していただけるよう説明しています。改定時などは、別説明文にて案内を行い、面会時などに補足説明を行い対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、定期的な利用者ご家族向けアンケート調査や運営推進会議の場を活用している。コロナ禍で中止となっている傾聴ボランティア、介護相談員が再開された時には来館時に意見や要望を収集していた。アンケート結果は定例会やカンファレンスで報告、検討して、改善点と改善報告を本社担当に報告しています。	苦情相談窓口・アンケートの実施・電話連絡や家族の面会時等、様々な場面を活用しながら直接家族の意見・要望を確認している。また、「コミコタイムス」の発行や居室での入居者と家族の昼食会の実施等、家族との信頼関係構築に取り組んでいる。挙げた意見・要望を会議にて検討すると共に、職員全員へ周知徹底を図り、サービスの質の確保・向上に繋げている。対応内容は記録として保存しており、法人本部に報告書として提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会やカンファレンスの際に職員側から問題点や意見を書いて提出するような用紙を渡し、職員の率直な意見を出しやすい環境にしています。(2F)会議内容は施設長宛てに議事録を定時しています。(本社からのメールにて自己申告制度やSDGSの募集などがあった。)	定例会やケアカンファレンス等を活用し、全職員から意見・提案等を確認している。事前に意見・提案記入用紙を職員へ配布しており、意見や要望を言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。また、年間研修計画に沿って、内部・外部研修を実施しており、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は定期的に職員と個別面談を行い、勤務状況や年間テーマの目標の確認をしています。管理者は諸君に職場環境の聞き取りや体調面などの把握、助言しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員対象の研修を毎月行っており、外部研修も一部の職員が参加しています。新人、経験者、エルダー、特定技能など、個々の段階に見合った研修(OJT, OFF-JT)が行なわれている。働きやすい環境整備を行い、スキルアップ出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で活動規模にも変化はありましたが、複合施設の利点を生かし、サービス別の職員との交流が毎日行えています。また、高サポイベントの参加や、外部研修などの機会に、他社施設との交流が出来ていると感じます。自身での研修報告書作成時や、研修参加スタッフが機会を重ねるごとにサービス向上に努められればと思います。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には注意と敬意を持って関わり合い、より良い信頼関係の構築に努めています。介護側では生活支援経過記録を別に作成し、情報共有と報告ツールとして活用しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者からの状況通達や来館時に職員側からご家族様とコミュニケーションを計り、要望や不安、利用者様の情報などを引き出し、ケアに反映しています。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族等の「その時」に必要な事を支援、計画をたてた後、安心や本人の自立に繋がるその他のサービスが有効に使用出来るのかを一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持って対応し、残存機能を保持できるよう自立支援に努めています。本人が自立する事で自信や充実感、協力する事での喜びや持ちつ持たれずの関係作りを図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来館時、電話連絡時、オンライン面会時、玄関での面会時、毎月のご家族様宛ての手紙のなかで本人の生活状況や近況報告、行事への参加の呼びかけなどを行っています。施設の使用電話を使った連絡手段などの機会もありました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味を継続する為に、場所や連絡、関係作りの補助支援を行いました。居室に友人を招き、一緒に過ごしたり、外出や外食、レクリエーションへの参加をされていました。	地域の商店への買い物や地域イベントへの参加等、馴染みの場所への外出を実施しており、入居者の希望に寄り添い、柔軟に対応している。また、家族との外出・外泊・外食・行事参加は自由となっており、家族との関係継続も支援している。日頃から、おにだか館1階のデイサービス施設の利用者とは、イベント等を通じて交流する場面が多く、馴染み関係継続や新たな馴染み関係構築の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを保持する事、孤立化を防ぐ為、に職員が常に観察し、介入しながら、利用者様の性格や相性等を考慮して食堂での座席位置や円滑なコミュニケーションがとれる工夫と支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後、ご家族に、現在でも運営推進会議のメンバーとして参加して下さっています。以前利用されていたご利用者様(自宅に帰宅しました)がデイサービスを利用されており、コミュニケーションを継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通して、本人の意思、ご家族様から生活習慣や希望などを汲み取り、反映できるよう努めています。	入所前に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、他事業所や医療機関から情報を収集しており、詳細な情報把握に努めている。また、日頃から入居者とのコミュニケーションや家族との相談を通して個々の意向や思いを把握しており、本人本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を活用し、職員と更新する事で情報のアップデートを行っている。カンファレンスや(ケアウォッチャー)コミュニティーで情報の共有と把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態はご家族、受診医、往診医、管理薬剤師、看護師を交え相談、記録を行い、ケアウォッチャーで職員共通の情報として把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には利用者様の意向やサービス内容について、本人及び家族から聞き取りを行っています。意思の疎通が困難な利用者様には家族、関係者の意見、要望を元に作成しています。計画の定期見直しは6か月置きに状態変化があった場合は随時見直ししています。	本人・家族から確認した意向や医師・看護師・職員の意見を基にサービス担当者会議を開催し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施し、必要に応じて見直しを行っている。日頃から連絡ノートや会議等を活用し、情報や状況の確認及び、共有を図っており、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間記録や日誌などに必ず特記事項を欄を設け、些細な変化や意見を記録として残しています。また個別支援の確認や他職種への通達などにコミュニティーを活用し、情報共有とケアの見直しに使用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設の2Fと3F別々にご夫婦が入所されており、ご夫婦での時間を過ごして頂けるように環境作りをしています。(コロナ禍では一時的に中止していました。テレビ電話を使用してコミュニケーションの機会を作りました。)複合施設の利点を生かし多機能なサービスを提供できるような柔軟な支援に努めています。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染の影響でボランティアの来館は中止になっています。活動の開放時には近隣のコンビニやスーパーへ買い物に出かけたり、敬老の日には自治会よりお祝いの品を頂きました。また、訪問理美容は継続中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は本人、家族の希望を尊重し、希望に添える形を選択していただいています。また、入院時や連絡体制のある近隣の医師をいくつか紹介しています。歯科、整形外科など受診、往診出来る医療機関との関係を継続している。	定期的に内科の往診を実施すると共に、希望のかかりつけ医への受診も行われており、適切な医療支援に努めている。また、必要に応じて職員が通院に付き添う等、医師や家族との情報共有に繋げている。協力病院やかかりつけ医とは緊急時に適切な対応が得られるよう、協力体制が整備されている。日々、看護職員による健康管理・服薬管理・医療相談・助言等が行われており、入居者及び家族の安心に繋がっている。必要に応じて訪問リハビリを導入しており、歩行機能の維持・向上を図ると共に、マッサージや拘縮予防を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診準備時や日々の変化があった場合は管理者、職員、看護師とで主治医への相談内容の確認と連絡や日常の変化の内容確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医への報告、診療情報提供書の提供など、安心して治療できる環境を施設側でもサポートしています。入院後、病院側のソーシャルワーカーとの連携では生活面での通達や退院する為に必要な情報などをご家族様を交え病院側に相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りの指針」の説明を行い、終末期には「リビングウィル」などでご家族の現在の意向や意見を把握しています。医師、看護師、家族、施設職員とで話し合い「看取り介護についての同意書」作成し、ご家族様、本人が同意に了承して頂いた時点で医師、ご家族、施設側のサインをいただいています。事業所で対応出来ない場合は病院等を連携をとりながら介護情報や医療情報の提供を行っています。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族への意向確認を行い同意を得ている。重度化・終末期においては、医師と24時間連絡が可能となっており、重度化した場合や終末期支援に向け、連携体制を構築している。施設開設以来、看取り支援の実績もあり、医療機関や家族と連携しながら支援計画を作成しており、納得が得られる終末期の支援が家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、介護職員は応急手当や初期対応の方法と訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや月間研修の議題として事例検討、勉強会を行っています。ご家族様に「事故発生や発病した場合の連絡方法の確認書」を記入してもらい、迅速かつ有効な連絡体制を構築しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災時の組織図、役割分担表、通報消化避難誘導マニュアルを事業所独自に作成し備えています。年2回の消防訓練は感染拡大の為、中止となっています。いざという時の適格な対応や地域との協力体制の不安さはある。	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。昨年同様、コロナ禍の為、消防署立会いの訓練は実施しておらず、自主訓練を4回実施している。自主訓練では、火災・地震・夜間を想定した避難訓練や消火器訓練・通報訓練等を実施しており、状況に応じた対応方法の確認を行っている。建物が防火・耐震構造となっており、安心・安全な住居環境となっている。その他にも煙体験を実施しており、具体的な想定場面を用意し、確実に避難誘導が出来るよう取り組んでいる	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本社主導のマナーインストラクターを中心に、活動を行っています。その方のその時に合った言葉かけを自然な形で行えるように心がけています。トイレや入浴介助時には羞恥心に配慮した対応を行えるよう努めています。	プライバシー保護や接遇に関するマニュアルの整備及び研修を実施し、職員への周知・理解浸透を図っている。日頃から介護のプロとして、入居者の主体性を尊重し、共同生活の楽しさを提供すると共に、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。マナーインストラクターを配置し、職員の日頃の言葉遣いや対応をチェック項目に沿って確認及び指導を行っており、人権意識の徹底に向け、事業所全体で取り組んでいる。接遇マナーの習得が、職員自身のスキルアップに繋がっており、利用者や家族から好感度アップの評価が得られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中や、個別で利用者様が思っている事や感じている事を了承した意味で頷いたり、傾聴したりして汲み取り、希望や要望に添えるような対応をしています。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のご意向や生活のペースに職員が合わせ、体調や心身の状態に合わせた支援に努めています。起床時間や誘導前に「どうしますか？」など自己結定をしてもらうようなコミュニケーションを取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えや身だしなみに興味を持てる環境を個人個人で整えるよう努めています。お化粧をして外出したり、来館時にご家族様から洋服が届いた際、試着されている利用者様もいらっしゃいます。整容品などを職員が外出し、購入する方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりに合った食事形態で提供しています。その日の体調や物によって食事形態を変え対応をしています。一緒に調理や片付けをした際には「助かりました」「ありがとう」の言葉を大切にしています。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを職員と協同で行っている。献立の作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、季節に応じた特別食や行事食・テイクアウトによる牛丼等も提供している。その他、手作りおやつを実施していると共に、入居者の誕生日には、個別に手作りケーキでもてなす等、食に対する楽しみを支援している。その他にも、入居者と家族が居室で昼食を共にする機会を用意する等、食を通して家族とのつながりを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量は、毎回摂取量を記録、水分量(in)排泄回数などを把握しながら、一人ひとりの状態や能力を考慮するとともに、飲み物や料理に工夫を凝らしながら、本人の食に対する欲を大事にしながら摂取していただけるよう支援しています。水分摂取がスムーズに進むように、お好みの物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後、本人の意思や状況に合わせて行い、義歯に関しても、同様に行っている、夜間は必要な方は洗浄剤を使用している。トラブルの際、治療・ケアが必要な場合は、ご家族の同意の元、訪問歯科を利用し支援している。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌の排泄表とケアウォッチャー内のタイムラインに従って個々の利用者に合わせて声掛け、介助を行い対応しています。体の左右の不自由さに合わせて手すりを左右別にした二つのトイレがあり、手すりの近くにクッションを張り付けたり、排泄終了を合図する鈴を備え付けたりして工夫しています。その日の体調によって、布パンツではなく紙パンツやパットの使用、ポータブルトイレを使用しています。	排泄チェックリストやケアウォッチャーの記録機能を活用し、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて対応しながら排泄の自立に向け取り組んでいる。また、献立の工夫や運動等を取り入れると共に、必要に応じて、医師や看護師の指示を得ながら、適切な排便コントロールを行っている。他にも、左右異なる手すりの設置・クッション材の活用・合図用に鈴を設置する等、入居者個々の身体状況や精神面に応じた排泄環境の整備を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄簿での排便管理を行い、便秘予防、健康意識の対応として毎朝乳製品の提供を行っています。日中の外出支援のお誘いや、訪問リハビリの介入、歩行介助での歩行訓練などを行い、個々に応じた予防に取り組んでいます。トマトが便秘の予防になるとの事でケアに取り込んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設側のある程度の時間制限はあるが、本人の意思を確認したうえで体調やタイミングを計りながら実施しています。週二回の入浴が基本ですが、拒否される方、この人じゃないと入らない方などは時間の変更や清拭で対応する事もあります。浴室の温度や入浴剤の使用などで、印象に残る、快適な入浴が出来るように努めています。また、お風呂レクなどを企画し、いつもと違う雰囲気での入浴を楽しんで頂けるような工夫もしています。コロナ禍では黙浴のPOPを浴室に掲示しています。	入浴は入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応しており、本人の意向にそった入浴支援を行っている。必要に応じて、足浴・清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を実施しており、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。また、銭湯レクを実施しており、入浴剤の活用・浴室の小物の配置換え・風呂上りの飲物を工夫する等、入浴が楽しみごとや気分転換の機会となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて居室で休息出来る習慣や、体調面、日中の生活上の活動を考慮したうえで、休息・安眠策をとり支援している。その際、見守り・リスクマネジメントの一環として、居室ドア前にレースカーテンを設置し、自ら行動する方や移動に介助が必要な方向けに、職員がすぐに変化に気付けるような環境作りをしています。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理薬剤師、かかりつけ薬局からの薬の変更や毎回の処方対応を、「内服薬ファイル」にて管理している。(2F)薬の効能・用法・注意事項を把握して確実な服薬支援をする為、届いた薬の確認、薬のセット、服薬前の確認を行い、合計3回の確認、管理を行っている。利用者様が飲みづらい薬を主治医、薬剤師に伝え、薬を変えて頂いた事例がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味を職員が把握し、複合施設の利点を生かし、他利用者様との交流の場を設けています。気分転換や楽しみ事に一環として買い物、散歩など楽しんでいただけるような支援をしています。コロナ感染拡大時には、室内で体操や読書、職員がDVDを借りて鑑賞したりしました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の自粛をしていましたが、今期より少しずつ緩和され、外出をしています。感染にひやひやしなからのお花見から、久々の和食レストランへの外食レクに、施設では作る事の出来ない食事や雰囲気を楽しんで頂いています。また、買い物に行かれた際は、ご自分で品物を見分けご購入されています。ご家族様の希望で墓参りや外泊をされた利用者様もいらっしゃいます。	今年度からコロナ感染者数の動向に応じて、内容や人数に配慮しながら、散歩・買い物・ドライブ・お花見・外食等の外出活動を実施している。また、併施設との交流も再開され、入居者の楽しみとなっている。他にも、おにだか館合同夏祭りも開催されており、家族や地域住民が参加する等、地域交流の機会も増え、入居者の生活活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に沿い、家族の同意・確認のもと所持・使用出来るように支援している。金銭の意識を無くさない為、外出やレジでの精算を支援していますが、近年の支払い方法の理解が難しく利用者がすべてを実施出来ない事があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、ご友人と電話や手紙などの連絡を取りたいと希望された際には、個々で支援をしています。月間レクリエーションの一環で暑中見舞いを全ご家族様宛てに送られています。		

【千葉県】癒しの市川おにだか館グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、四季を感じて頂きたく、職員主導で掲示物を変えています。各ユニットに行事報告の場所を設け、外部の方にお知らせ出来る場所を作っています。食堂と調理場が一体になっており、見守りをしながら調理が出来る事と共同生活感のある時間と空間が作れていると思います。	施設内はバリアフリー環境が整っており、十分な介助スペースが確保されている。エレベーターが設置されており、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備環境が整備され、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等を備えており、自由にくつろげる環境が整っている。また、施設内には、季節の飾り付けや入居者による作品の展示に加え、行事や外出時の写真等も掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に大型のテレビを設置し、寛げる空間を提供しています。(2F)リビングルーム、居室の他に自由な時間を過ごせるオープンスペースを設けている。(4F)廊下部分にソファを設置、フリースペースでは自由で居心地の良い共有空間を設けています。(4F)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人・家族の希望で家具や、写真、使い慣れた物、など、一人ひとりが様々な用意し使用して頂いている。居室内側にはプライバシー保護の為に、内部施錠が可能になっています。また、福祉用具の搬入時や体調変化によって、ご本人、ご家族様と相談して居室内の家具等を移動しています。	希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮されている。また、居室を自由にアレンジする事も可能となっており、生活スタイルに合わせた一人ひとりの個性が表れた居室となっている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、入居者のプライバシーに配慮している。今年度は全居室のエアコンリニューアルを実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室が自然に分かるよう表札を使用している。又、フロア全体がバリアフリーで、要所には手摺りを設置し、一人ひとりの身体・残存機能の低下予防と安全な環境作り、動線の確保に努めている。		